

シリーズ

笑顔をつくる働き方改革

寒河江市立寒河江中部小学校

那 須 隆 秀 校長

少子化が進む中、令和元年度からの5年間で児童数が約100名増加した本校。「外部人材と若手教員の活躍」「児童の学力向上」を推進し、働き方改革の充実を図る取組みをうかがいました。



☆外部の力を内部の力に☆

☆児童と先生方の頑張りを発信☆

Q：たくさん子どもたち、たくさん先生方、みなさん生き活きとされています。その秘訣は？

A：常日頃から「**楽しく**」という言葉大切にしている。キーワードのように先生方も意識している。

Q：プール指導を終え、笑顔が輝く担任の先生が周囲の方々にお礼を述べていました。あの方々は？

A：CS（コミュニティスクール）の活動として、学校とPTAの協力だけでは対応できないことに**地域の方々から力を**貸していただいている（製氷機寄贈は新聞掲載*）。プールサイドの見守りだけではなく、スポーツ技術の指導、ソーイングサポート（ミシン指導はほぼマンツーマン）等々、**先生方が児童への指導に注力**できることから、**児童の技能も向上**している。プールサイドの見守りを地域の方が担うことで**先生方には空き時間**が生まれ、**勤務時間内の教材研究**を行う余白が生まれている。時間外在校等時間の縮減は、地域等の外部人材の方々のお力添えによるゆとりも大きな要因（笑顔）。

Q：新採教員育成・支援事業で目指していることにもつながりますか？

A：「**余白のあるところで人は育つ**」と考えている。空き時間や余裕感があるからこそ先生方同士の**横の連携**が生まれ、良い授業づくりにもつながる。**良い授業や児童の学力向上**は、めぐりめぐって先生方のゆとりだけではなく、**モチベーション向上という働き方改革**につながる。

Q：若手教員が大変多い学校です。良い授業づくりや学校研究推進のコツは？

A：**若手教員が「夢中部」というグループ**をつくって活動している。このメンバー等に他校の先進事例を紹介したところ、「自分たちも取り組みたい」と動き始め、**授業づくりやICT活用**について自主的に提案し、研究につながっている。この若手の頑張りを、経験豊富な**先輩教員が温かく支えている**。



主体的に学習に取り組む態度も育てている。校長の仕事は、児童と先生方の頑張りを内外に紹介すること（笑顔）。

Q：校長も生き活きとされています。ご自身のワークライフバランスや働き方改革は？

A：バドミントン。8月には県代表として東北選手権に出場！

(* R6.6.27 山形新聞に掲載)

裏面には、「令和5年度下期・年間在校等時間」と「チェックシート」の結果を掲載しています。

★令和5年度下期・年間の時間外在校等時間★

過去4年間で**最も少ない年間月平均時間外在校等時間**となりました！

そして、全ての校種（小・中・特・高）で**45時間を下回る**結果となりました！！

項目	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
年間月平均 時間外在校等時間	34時間 21分 (-1時間 11分)	42時間 20分 (-3時間 09分)	21時間 45分 (-0時間 23分)	38時間 35分 (-2時間 12分)
下期月平均 時間外在校等時間	32時間 33分 (-0時間 32分)	40時間 01分 (-3時間 01分)	20時間 37分 (+0時間 08分)	36時間 04分 (-1時間 04分)
年間月平均 80時間超人数	3人 (0.1%) (-1人)	34人 (1.6%) (-25人)	0人 (0.0%) (±0人)	79人 (4.3%) (-20人)
下期月平均 80時間超人数 《第Ⅱ期プラン目標》	3人 (0.1%) (-3人)	16人 (0.7%) (-19人)	0人 (0.0%) (±0人)	71人 (3.9%) (-12人)
年間月平均 45時間超人数 《第Ⅱ期プラン目標》	764人 (21.1%) (-88人)	870人 (42.2%) (-160人)	23人 (3.0%) (+13人)	529人 (29.0%) (-54人)

() は対前年度比の値

- ◎ **学校、先生方の前向きな取組み**により、改善がより進んだ令和5年度となりました。
- ◎ 特に**中学校の改善傾向**が目立っています。**特別支援学校は80時間超0人を継続**しています。
- ◎ 第Ⅱ期（令和5～7年度）プランは「半期月平均80時間超人数」と「年間月平均45時間超人数」を0人が目標となっています（表の下2つの行となります）。

管理職の皆様、アンケートへの御協力、ありがとうございました。

★取組み状況チェックシート★

小学校と中学校では「**更なる意識改革**」として意識の向上や計画的な業務運営、「**教育課程の見直し**」として余剰時数の削減や行事の精選がみられました。また、「**1日1時間以上の空き時間確保による勤務時間内での授業準備**」が小学校で大幅に改善されました。

統合型校務支援システム活用の成果も含めて「**ICTの有効活用**」として出欠確認フォームや月（週）予定表のクラウド共有等の実践例がみられました。システム導入や整備は、**各教育委員会**が学校現場における負担解消に向けた**様々な支援をしていただいた成果**です。

中学校と高等学校においては、「**部活動改革の推進**」が進んでいます。休日活動の縮減と地域移行の推進、平日の休養日設定、部活動数の削減、複数顧問制等、様々な改善がなされています。**令和7年度までの改革推進期間**として、今後も推進が期待されます。